

2011年(平成23年)

3月7日
月曜日

新潟日報

題字 會津 八一

発行所

新潟日报社

〒950-1189

本社 新潟市西区善久772-2

郵便振替口座 00620-2-538

替女唄継承者・萱森直子

共感呼ぶ「本物の芸」

越後替女唄の継承者と
して知られる萱森直子
(52)新潟市西区IIが県
外に活躍の場を広げてい
る。今年は東京、大阪に
続き、19、21日に岡山県
倉敷市で公演。台間をぬ
って演歌歌手の石川さゆ
りが主演する舞台「夢売
り替女」も指導する。「最
後の替女」といわれた故
・小林ハルに弟子入りし
て20年近く。「本物の芸
を伝えたい」という心意
気に共感が集まっている。

2月末、東京・世田谷
で開かれた公演で、萱森

増える県外公演 岡山でも



は、門付け唄の「替女松 放火末遂を起こす」「八百
坂 や、恋慕のあけくに「屋お七」を津軽三味線の

調べにのせて熱演した。
世田谷での公演は今年
で4回目。東京での公演
を企画してきた枝厚(61)
は4年前、阿賀野市の出
湯温泉で、萱森の生の三
味線と唄に触れた。「ズ
シンと胸に来るリズムや
荒々しさにひかれた。唄
の台間のトークも面白か
らう」と感銘を受けた。

3日間4公演で、毎年
200人以上を集め、常
連客も多い。歌手の石川
もその一人だった。替女
唄好きが高じて、舞台化
も計画。3月に名古屋で
4月には大阪での公演が
決まり、萱森の指導を仰
いだ。

替女唄に譜面はない。
ハルにうたってもらい、
ひたすらまねた。「受け
継いだ『本物』の芸を演
じる。それが私の役割だ
と思っています」と萱森。
伝統を守り、聞きやすさ
を優先するようなアレン
ジはしない、真摯な姿勢
も高い評価につながって
いる。

越後替女を描き続け
た画家の故・斎藤真一
が倉敷市出身という縁
もあり、19日に開幕す
る倉敷音楽祭に招かれ
た。「替女唄は郷土の宝
物。県外からの注目は
ありがたい」と話して
いる。